

平成 22 年 5 月 14 日現在

研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2006～2008
 課題番号：18320102
 研究課題名（和文） 東照宮祭祀の基盤・確立・展開
 研究課題名（英文） The Foundation, Establishment and Development
 of Religious Observances at the Toshogu-Shrine
 研究代表者
 曾根原 理（SONEHARA SATOSHI）
 東北大学・学術資源研究公開センター・助教
 研究者番号：30222079

研究成果の概要：日本の近世社会において、東照宮が果たした役割を考えるため、関係する史料を各地の所蔵機関などで調査した。また、近世初期に東照宮を設立する際に基盤となった、中世以来の天台宗の展開について、各地の天台宗寺院の史料を調査した。加えて、年に二回のペースで研究会を行い、各自の専門に関する報告を行い議論した。そうした成果として、日本各地の東照宮や天台宗寺院に関する著作と論文を公表することが出来た。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006 年度	1,700,000	510,000	2,210,000
2007 年度	2,000,000	600,000	2,600,000
2008 年度	1,700,000	510,000	2,210,000
年度			
年度			
総計	5,400,000	1,620,000	7,020,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：近世史

1. 研究開始当初の背景

(1) 近年、権力者（信長・秀吉・家康や藩祖など）の神格化に対する興味が高まっている。政治や経済の側面だけでは、近世社会の本質的な部分が把握しきれず、宗教や文化の側面に従来以上に注目し、その成果を組み込むことによって、近世社会を総体として理解できるという研究動向にもとづいている。

(2) しかし、それに関する文献は、なお調査されずに、各地の史料所蔵機関や寺院などに保管されているものが多い。視点の変化にもとづき、新たな方面の史料調査と分析が

必要である。

(3) そうした史料を扱うにあたっては、従来以上にさまざまな専門家が共同で作業し、学際的に内実を解明することが求められる。

2. 研究の目的

(1) 近世初期に将軍家始祖を神格化し、徳川将軍を中心とする秩序維持の要となった日光東照宮の社会的役割について、宗教文化史、政治思想史、祭礼芸能史、地域社会史など様々な観点から解明する。

(2) 従来手つかずで残されてきた各種関連史料について、本格的に合同調査を行い、翻刻や解説を施し、学界の共有財産とする。

(3) 研究成果について、さまざまな専門の研究者が一同に会して学際的な検討の場を設ける。また、日本国内だけでなく、国際的な研究集会で報告を行い、日本側からの発信を行う。

3. 研究の方法

(1) 近世初期、徳川家康を神格化し日光の東照宮における祭祀を確立した経緯について、関連史料を合同調査する。また、その基盤となった思想や宗教、近世後期に社会の中で広がりを見せた様子などについても、同様に調査をする。

(2) 年に2回、東京と関西で交互に研究会を開催し、交替で成果を報告し議論を行う。

(3) 個別に国内で成果発表を行うとともに、国際的な研究の場で、比較文化史的にも意義のある報告を合同で行い、日本側からの研究発信を実現する。

4. 研究成果

(1) 東照宮の関連史料を合同調査し、今まで存在が知られていなかった史料を扱った研究に着手した。具体的には次のとおりである（以下は研究代表者が加わった例で、他に研究分担者なども独自に調査を実施している）。

①名古屋東照宮別当寺院の現地調査

2006年8月25日
2007年9月12～13日
2008年9月9日

②鳥取東照宮別当寺院等の現地調査

2006年8月28日
2006年10月29日
2007年7月24～26日
2008年11月26日

③岡山東照宮関係史料の調査

2008年11月27日

(2) 家康神格化をになった天海は、天台宗の教義にもとづき神道説を主張したことから、それ以前に天台宗の教学基盤を形成した、いくつかの談義所寺院などにおいて、史料調査を実施した。あるいは学会の共有財産となるよう目録作成を進めた。具体的には次のとおりである（以下は研究代表者が加わった例で、他に研究分担者なども独自に調査を実施している）。

①成菩提院（米原市）現地調査

2006年8月21～24日
2007年8月19～22日
2007年12月3日
2008年8月19～22日
2008年11月7～9日
②三千院門跡（京都市）資料閲覧
2006年10月27日
③慈明院（岐阜市）現地調査
2008年9月6日

(3) 毎年の研究会において、以下のような研究発表に対し議論を行い、認識を深めた。

- ①2006年10月28日
（京都・池坊短期大学）
曾根原「1990年代以降の東照宮研究概観」
福原「仙台東照宮祭祀」
- ②2007年5月25日
（東京・筑波大学大塚キャンパス）
岸本「鳥取東照宮関係資料について」
山澤「日光東照宮祭祀と日光修験」
- ③2007年10月12日
（京都・池坊短期大学）
佐藤「山王神道説の形成をめぐって」
松本「台密西山流について」
- ④2008年5月9日
（東京・東北大学東京分室）
中川仁喜（研究協力者）
「近世初期の台密法流
—蓮華・三昧両流を中心として—」
大川「徳川政権の支配正当化論の諸相
—儒学者の場合—」
牧野「船載大蔵経について」
- ⑤2008年10月10日
（大阪・関西大学）
オリオン・クラウタウ（研究協力者）
「近代学問と宗教改革のはざま—近世
仏教墮落論の形成をめぐる—考察」
大島「仏教がもたらした食文化」

(4) 各々の専門を生かし、また異なる分野を参考にしつつ研究を進め、2009年6月にオランダのライデン大学で実施された研究集会“Perspectives on Religion and Ritual in Early Modern Japan（近世日本における宗教と儀礼へのまなざし）”で研究代表者、研究分担者、研究協力者のうち8名が成果発表を行う準備を積み重ねた。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計8件）

1. 曾根原 理「徳川家康年忌行事と延暦寺」
〔『仏教史学研究』51-1、2008、p1-21、査読有）

2. 佐藤 真人「神仏隔離の要因をめぐる考察」(『宗教研究』353、2007、p149-173、査読有)

3. 山澤 学「山崎美成の『日光筆記』—天保期東叡山修史事業と日光山史料採集—」(『栃木県立博物館研究紀要』11、2007、p126-140、査読無)

4. Sonehara Satoshi ‘The Establishment of Early Modern Buddhism’, (Acta Asiatica91, 2006, p65-83、査読無)

5. 曾根原 理「東照宮祭祀と山王一実神道」(『国史学』190、2006、p5-24、査読有)

6. 山澤 学「東照宮祭礼と民衆」(『国史学』190、2006、p25-49、査読有)

7. 佐藤 真人「秋葉神社と秋葉の火祭」(『悠久』104、2006、p46-58、査読無)

8. 牧野 和夫「新出『小児論』二種紹介」(『実践国文学』70、2006、p1-9、査読無)

[学会発表] (計5件)

1. Sonehara Satoshi “Tendai Scholarship during the Formation of Kashiwabara Dangisho” (2008 Korean Conference of Buddhist Studies. 17th May 2008 ; Seoul, Korea)

2. 曾根原 理「日本近世天台の時期区分」(浙江工商大学日本文化研究所・早稲田大学日本宗教文化研究所主催第三回共同国際シンポジウム「海を渡る天台文化」、2008年6月1日、中華人民共和国浙江省天台県・天台賓館)

3. 佐藤 真人「平安初期天台宗の神仏習合思想—日吉山王信仰をめぐる—」(浙江工商大学日本文化研究所・早稲田大学日本宗教文化研究所主催第三回共同国際シンポジウム「海を渡る天台文化」、2008年5月31日、中華人民共和国浙江省天台県・天台賓館)

4. 曾根原 理・松本 公一・大島 薫・佐藤 真人「パネルセッション 天台談義所におけ

る知の形成—柏原談義所を中心として—」(日本思想史学会 2007 年度大会、2007 年 10 月 21 日、長崎・長崎大学)

5. 曾根原 理「徳川家康年忌行事と延暦寺」(仏教史学会第五十八回学術大会、2007 年 10 月 20 日、京都・花園大学)

[図書] (計6件)

1. 曾根原 理「日本近世天台の時期区分」(王勇・吉原浩人編『海を渡る天台文化』勉誠出版、2008、p225-248、査読無)

2. 佐藤 真人「平安初期天台宗の神仏習合思想—最澄と円珍を中心に—」(王勇・吉原浩人編『海を渡る天台文化』勉誠出版、2008、p151-175、査読無)

3. 曾根原 理『神君家康の誕生』吉川弘文館、2008、p1-6/1-185

4. 曾根原 理「浄土宗における生身仏の系譜」(大桑斉・平野寿則編『近世仏教治国論の資料と研究』清文堂、2007、p161-177、査読無)

5. 山澤 学「林羅山の学問と寛永文化—『城内神廟靈鶴記』を中心に—」(斯文会編『草創期の湯島聖堂』清流出版、2007、p96-101、査読無)

6. 牧野 和夫「日本残存資料から見た『小児論』」(韓国寓言文学学会編『寓言の人文的地位相と現代的活用』図書出版博而精、2006、p712-722、査読無)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

曾根原 理 (SONEHARA SATOSHI)
東北大学・学術資源研究公開センター・助教
研究者番号：30222079

(2) 研究分担者

牧野 和夫 (MAKINO KAZUO)
実践女子大学・文学部・教授
研究者番号：70123081
福原 敏男 (FUKUHARA TOSHIO)

日本女子大学・人文社会学部・教授
研究者番号：20156805
佐藤 真人 (SATO MASATO)
北九州市立大学・文学部・教授
研究者番号：40222020
大島 薫 (OSHIMA KAORU)
関西大学・文学部・教授
研究者番号：50319604
松本 公一 (MATSUMOTO KOICHI)
池坊短期大学・准教授
研究者番号：60442258
岸本 覚 (KISHIMOTO SATORU)
鳥取大学・地域学部・准教授
研究者番号：80324995
山澤 学 (YAMASAWA MANABU)
筑波大学・大学院人文社会科学研究科・講師
研究者番号：60361292
大川 真 (OKAWA MAKOTO)
東北大学・大学院文学研究科・助教
研究者番号：90510553

(3) 研究協力者

中川 仁喜 (NAKAGAWA JINKI)
大正大学・非常勤講師
研究者番号：(なし)
和田 有希子 (WADA UKIKO)
早稲田大学・日本宗教文化研究所研究員
研究者番号：(なし)
万波 寿子 (MANNAMI HISAKO)
龍谷大学・非常勤講師
研究者番号：(なし)
オリオン・クラウタウ (Orion Klautau)
東北大学大学院・博士課程後期
研究者番号：(なし)
青谷 美羽 (AOTANI MIU)
同志社大学大学院・博士後期課程
研究者番号：(なし)
杉山 俊介 (SUGIYAMA SHUNSUKE)
同志社大学大学院・博士後期課程
研究者番号：(なし)